



みなさん、6月号②で紹介したビブリオバトルを覚えていますか？ その中で、図書委員による模擬投票の様子をお伝えしました。集計が終わりましたので、投票結果を発表したいと思います。また、図書委員以外で投票に参加して下さった皆さん、ご協力ありがとうございました。

投票結果！！

第1位（17票）



『線は、僕を描く』
 砥上裕将 著 / 講談社
 バトラー 福島県立田村高校
 会田遥輝さん

水墨画が深い悲しみに生きる「僕」を救うお話。
 <投票理由>
 「熱意がすごく伝わってきた」「水墨画を文章でどう表現するのか知りたいと思った」など。

第2位（4票）



『デフ・ヴォイス』
 丸山正樹 著 / 文藝春秋
 バトラー 埼玉県立春日部女子高校
 印南舞さん

コーダ（ろう者の両親を持つ聴者の子供）の手話通訳士が主人公のミステリー。
 <投票理由>
 「今まで読んだことのない話だった」「今まで考えたことがなかったことを考えさせてくれた」など。

第3位（2票）



『そして、バトンは渡された』
 瀬尾まいこ 著 / 文藝春秋
 バトラー 熊本県立大津高校
 村上星玲渚さん

父親が3人、母親が2人いる主人公の、ほんわり幸せなお話。
 <投票理由>
 「こちらに語りかけるような言葉に惹きつけられた」「主人公がどのように成長するのか気になった」など。

模擬投票を終えて

ペンネーム K・ニムラ

今年度、図書委員会ではビブリオバトルを実施します。それに先立って、私達は1学期にビブリオバトルの模擬投票を行いました。「第6回全国高校ビブリオバトル」決勝大会の決勝進出者8名のうち3名の発表を聴き、私達自身がそれぞれ1番読みたと思った本1冊に投票しました。集計結果は、『デフ・ヴォイス』に4票、『そして、バトンは渡された』に2票、『線は、僕を描く』に17票（発表順）でした。私は『デフ・ヴォイス』という本に投票したので、自分と違う考えの人が19人もいるのだと知り驚きました。模擬投票を通して、ビブリオバトルには今まで読んだことのない素晴らしい本を見つけられる点と、発表者、投票者の様々な考えを知ることが出来る点の2つのメリットがあると知りました。

私がビブリオバトルで発表する際は、良い本を見つけること、自身の考えを相手に理解してもらえるように発表することを心がけたいです。

今月のオススメ

ペンネーム 司書

『線は、僕を描く』
 『デフ・ヴォイス』
 『そして、バトンは渡された』

模擬投票の結果はいかがだったでしょうか？ 実は、『線は～』はメフィスト賞、『デフ～』はこのビブリオバトルでのチャンプ本、『そして～』は昨年の本屋大賞受賞作なんですよ。

この3冊は全て図書館にあるので、読みたくなった人はぜひ借りにきてください。